

せとうち DMO NEWS

地域や事業者の皆さまにせとうちDMOについて理解を深めていただけるよう活動状況や観光関連情報を毎月お届けしていきます。（皆様のご協力もあり今月で100号を迎えることが出来ました。これからもよろしくお願いいたします。）

Japan's Inland Sea, SETOUCHI

Vol.
100

“Japan's Inland Sea, SETOUCHI” 世界に評された瀬戸内



ABOUT US

「多島美」と呼ばれるキラキラと輝く海と大小700以上の島々、そしてそこに暮らす人々とともに息づき豊かな恵みをもたらす里山が織りなす景色、せとうち。わたしたちせとうちDMOはその恵まれた資源を「せとうちブランド」として確立し、地域経済活性化や豊かな地域社会の実現を目指し活動しています。その実現のため、せとうちエリアの自治体・観光関連事業者をはじめとする地域の皆さまと共に連携し、地域一丸となってせとうち広域での観光振興に取り組んでまいります。

せとうちDMO

発行日：2024年10月30日

発行：せとうちDMO

発行人：小原・京極

住所：広島市中区基町10番3号

せとうちDMO

<https://setouchitourism.or.jp/ja/>

SETOUCHI REFLECTION TRIP

<https://www.setouchi.travel/en/>

瀬戸内Finder

<https://www.setouchi.travel/jp/>

モナコヨットショー出展

高付加価値層の「アシ」であるスーパーヨット(24m以上の大型プレジャーボート)のせとうちエリアへの誘致のため、世界的に注目を集める「モナコヨットショー」において「SETOUCHI」ブースを出展しました。

【モナコヨットショー概要】

日時:2024年9月25日(木)~28日(日)

場所:モナコ公国 (ポール・エルキュル)

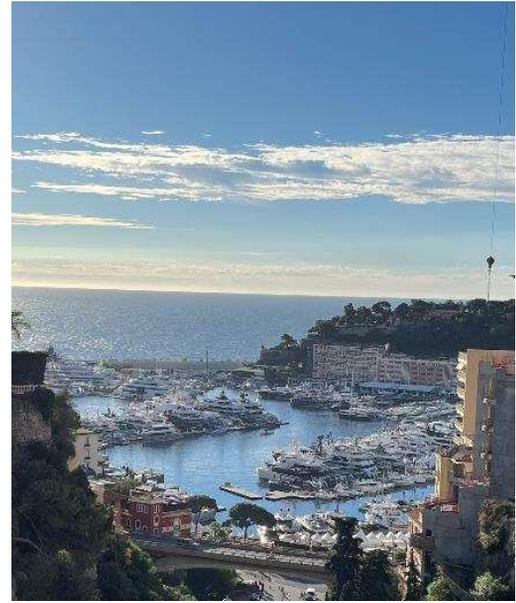
来場者数:約35,000人

出展:スーパーヨット 約120隻

テンダーボート 約60隻

デザイナー 設計士 設備メーカー

その他専門メーカー 560社



▲ヨットショー会場

4日間を通じて、150名以上の方に、年間を通じて晴天率が高く、台風などの影響も少なく、歴史・文化・食などを様々な島を巡りながら楽しめる、SYの寄港地としては未だ手つかずである、せとうちエリアの魅力をPRしました。

来場者の多くは、日本への憧れ・興味は高いものの、日本がSYの受入を始めたことを知る人は少なく、PRによるせとうちへの高付加価値層の誘客への高い効果を感じることが出来ました。

引き続き、関係団体との連携のもと、活動を継続し、せとうちエリアへの誘客に努めてまいります。

【来場者アンケート】

Did you know SY have lately made stop at ports in Japan?

I know very well 2%

I know 5%

I don't know
93%



▲ブースの様子



▲説明の様子

クルーズに関する海外調査報告①ベネチア編

観光庁「地方における高付加価値なインバンド観光地づくり」事業のせとうちエリアの一つのテーマである「クルーズ」において、世界の多様な旅客船が行き交う観光地の実態を把握し、今後のせとうちクルーズ戦略策定の基礎資料とするために海外調査を実施しました。

港湾関係の行政機関、水上交通会社、クルーズツアー取扱旅行会社等3都市で8団体を訪問し、ヒアリング調査を実施。街並み観察調査内容とあわせて今回は「ベネチア」の報告をいたします。

【調査期間】2024年9月18日～28日

【調査対象エリア】下記の3都市



【北アドリア海港湾局】



【水上タクシー・クルーズツアー会社「Ducale」】



【水上バス会社「Alilaguna」】

ベネチアでは下記3団体を訪問し、港湾インフラ整備、クルーズ及び旅客船の動向、規制、エクスカージョン、環境保護と持続可能性、地域・国との連携、経済効果、事業での課題等についてヒアリングを実施。

- ①北アドリア海港湾局
- ②水上タクシー・クルーズツアー会社「Ducale」
- ③水上バス会社「Alilaguna」

【主な内容】

- クルーズ受入と環境問題について
 - ・ベネチアは従来よりクルーズ船の起点港だったが、大型船が入港する際の波や振動は都市の地盤沈下を加速させ、この問題が深刻化している。
 - ・2021年には政府よりベネチア港に大型クルーズを入れないよう規制がかかり、2万5000トン以下の船はベネチア港に入れるが、それ以上の船は少し離れたMoarghreとChioggiaの港にクルーズを入れるよう対応している。
 - ・しかし、CIQなど入国管理などのターミナル機能は元のベネチア港にしかないため、水上バスとの連携してクルーズ旅行客をターミナルまで移動させている
 - ・今後はラグーナの外に港を造ることを計画して、クルーズ受入はサステナブルを重要視して進める
- 規制等について
 - ・水上タクシー等の企業は域内に30社あるが、国が制限しているので事業者数はこれ以上は増えない
 - ・棧橋の利用も最大300隻まで（大型船の場合150隻）というルールがある
 - ・航行禁止エリアや速度制限エリア、魚の養殖エリアなど細かいルールは地図上に可視化されている
- 地域の産業構造について
 - ・ベネチアの場合は観光業の給料は他の産業に比べて高く、チップも良い収益源になっている
- オーバーツーリズムについて
 - ・ベネチア島は住民5万人、観光客数は年間約3000万人
 - ・4～9月が繁忙期で特に5月と9月が忙しく、1日で7000の船が運航する日もある

クルーズに関する海外調査報告①ベネチア編

<街並み観察調査>

ベネチアの港湾整備、周辺環境、船の種類や料金・運航状況等について調査。一部を抜粋してご紹介します。

公共交通：水上バス（ACTV）



- ベネチア島内は水上移動と徒歩が移動の原則で、水上バス「ヴァポレット」でほとんどの観光地を訪れることが可能。
- 地域住民料金1.5€に対して、観光客料金は9.5€。水上バス亭のゲートも分けており、地域住民との共存に対応している。（ピンクが地域住民の優先ゲート）



- ベネチアは、干満差が1mもないため、水上バスの棧橋は2段階で、先端となるバス停コンテナだけ上下するようになっている。

水上タクシー



- 基本料金は1人当たり15€で、距離と時間に応じて料金が加算される料金システムになっている。水上バスに比べて移動コストは割高になるが、プライベート空間が担保されることに加え、自由に移動できるので水上タクシーを利用する観光客は非常に多かった。
- 木目調のデザインで統一感があり、内部のシートも革で高級感あるデザイン。

クルーズの受入環境



- ベネチア港は、ベネチア・マルコポーロ空港から近く、世界のクルーズ23社はベネチア港を利用してフライ&クルーズの拠点として成長した。
- 世界大手クルーズ会社であるコスタクルーズとMSCクルーズの起点港で、大量のクルーズ客の受入可能。しかし、2021年より大型クルーズ客船はベネチア本島に入ることができなくなったため、クルーズ客船の寄港はなく、別の港に入ったクルーズ客が水上バスや水上タクシーで移動してきたものを受入れている。

周遊クルーズ



- ベネチア周辺にはいくつかの離島があり、アイランドホッピングを提供する周遊クルーズも多く運航されている。ムラーノ島、ブラーノ島、トルチェット島の3つを巡るツアーが一番人気で、所要時間は約4~5時間。
- クルーズ料金は各社異なるが30€程度のもが多く、観光客に非常に人気が高い。クルーズはどれも洗練されたデザインで、スタイリッシュなものが多かった。



- 周遊クルーズの船は各社次から次へと港に入ってくる。港にはレストラン・カフェが立ち並び常に人々にぎわっている状況。船は横づけではなく、木の杭の間を頭から直角に入るうえ、隣の船との感覚が非常に狭い。

「VISIT JAPAN トラベル & MICE マート 2024」 に参加しました！！

日本政府観光局 (JNTO) が主催する日本国内の観光関係団体・企業 (セラー) と海外の旅行会社 (バイヤー) が行う大規模商談イベント「VISIT JAPAN トラベル & MICE マート 2024」 (以下、「VJTM2024」) が今年も開催され、せとうち観光推進機構は瀬戸内ブランドコーポレーションと共に、共同参加しました。



開催概要:

日時: 9月26日 (木) ~ 9月28日 (土)

会場: 東京ビッグサイト 内

プログラム:

9月26日 (木)

10:30~10:50 開会式

11:00~12:20 商談会 (午前の部)

12:20~13:30 昼食

13:30~17:50 商談会 (午後の部)

9月27日 (金)

9:00~11:20 商談会 (午前の部)

11:20~13:00 昼食

13:00~17:50 商談会 (午後の部)

9月28日 (土)

9:00~11:50 商談会



8月に新たに旅行業の登録を受けた「せとうちDMC」としてせとうちエリアや域内のコンテンツ・スポット、エリアの魅力を伝えるテーマ性に富んだモデルコースの紹介。

バイヤーのニーズや興味に合わせて様々な紹介をすることができ、バイヤーからは「ゴールデンルート以外の destinations の提案が欲しかったところだった」といったお声をいただくなど、新たな旅行先としてのせとうちへの関心・興味を惹くことができ、商談会だけでなく、その後のやり取りに発展させるなど、ビジネスチャンスに繋げることができました。引き続きこのご縁を大切に、せとうちへの実誘客へと繋げていきます。

9/13 (金) せとうちエリア マーケット研究会 を開催しました！

インバウンド誘客に取り組みたい地域の皆さまへ。

日本政府観光局 (JNTO) の海外現地事務所長をお招きして、海外市場における旅行のトレンドや現地事務所の取り組みなどをご講演いただく「マーケット研究会」。

今年度も当機構主催で開催し、この度はパリ事務所長の永井様をご来訪いただき、フランス市場の現況なども含めてご講演いただきました!!



上:取り組み内容を説明する
当機構坂元専務理事

左:ご講演をされる永井所長

◆ 日時

2024年9月13日 (金) 14:00~16:30

◆ 会場

岡山県立図書館 多目的ホール

◆ Program

14:10~15:10 ご講演、質疑応答

15:30~16:30 個別相談会、参加者意見交換会

個別相談会:



地域側の事業者と永井所長の個別相談会。

地域側の課題や取り組み状況等にしっかり耳を傾けられ、助言やアドバイスをお伝えしました。

➤ 事業者様のお声・感想

「UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」について相談した。
まずは認知度向上のため、情報発信やプロモーションを展開し、そのリアクションを見極め、魅力となり得るセールスポイントをしっかりと把握することが重要とのご助言をいただいた。

視察:

研究会の他、永井所長による現場視察に同行しました。

視察先は犬島、倉敷美観地区、備前長船刀剣博物館などです。

犬島では福武財団様によるガイド、倉敷美観地区では地元事業者の方にガイドをしていただきました。



岡山市犬島:犬島精練所跡地を視察



瀬戸内市:備前長船刀剣博物館を視察。館員の説明に「なるほど」と頷いていました。

10/11（金） 大阪・関西万博に向けた関西国際空港における 観光PRブースオープニングセレモニーに出席いたしました！

大阪・関西万博の開催まであと半年を切りました！！
多くの万博観光客が降り立つことが予想される関西の空の
玄関口「関西国際空港」。その到着ロビーにて万博に向けた
観光PRブースが設置され、当機構も協力を行いました。
10月11日（金）にオープニングセレモニーが開催され、
当機構職員も出席いたしました。



セレモニーのテープカットの様子

経緯

2023年5月、4つの広域連携DMO（関西観光本部、山陰インバウンド機構、四国ツーリズム創造機構、せとうち観光推進機構）が連携協定を締結。その中で「GREATER WEST JAPAN」（西日本広域周遊観光）の推進に向けて、4DMOが様々な取り組みで連携することで合意しました。

そしてこの度、連携協定の協力団体である関西エアポート株式会社様より、空港内の到着ロビーを活用したプロモーションの実施をご提案いただき、近畿運輸局様や日本電信電話株式会社（NTT）様等のご尽力・ご支援によりPRブース設置の運びとなりました。

※関西国際空港第1ターミナルでの観光PRブース活用をご希望の方はせとうち観光推進機構までご連絡ください。

独自技術「バイブロスケープ」

ブースでのプロモーション方法として、NTT 様の独自技術「バイブロスケープ」が採用されました。
バイブロスケープは、映像と音と振動を同時に体感できる映像サービスです。映像に投影されたモデルが歩くと、体験者にもその振動が足元に伝わり、よりリアルに体感できるサービス内容となっています。
映像ブースには、各DMOの管轄エリア内のスポットをそれぞれ投影。関西は那智勝浦、山陰は岩見神楽、四国は祖谷のかずら橋、そしてせとうちは山口県美祢市の秋吉台・秋芳洞・別府弁天池に決まりました。

広々とした秋吉台のカルスト台地の雄大さ、日本最大級の鍾乳洞秋芳洞、そしてコバルトブルーに輝く別府弁天池の美しさ、美祢の魅力や自然美を心から感じる内容となっています。

バイブロスケープの設置期間は万博開始まで。関西国際空港ご利用の際は、是非バイブロスケープを体感してみてください！！



バイブロスケープのブース全景（左から山陰、せとうち、関西、四国）



当機構職員も体験してみました！！

